

# 令和4年度全国学力・学習状況調査 結果分析【津市詳細版】

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

津市教育委員会及び学校が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

市内のすべての学校が、各児童生徒の学力や学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導や学習状況をより客観的に把握、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てます。

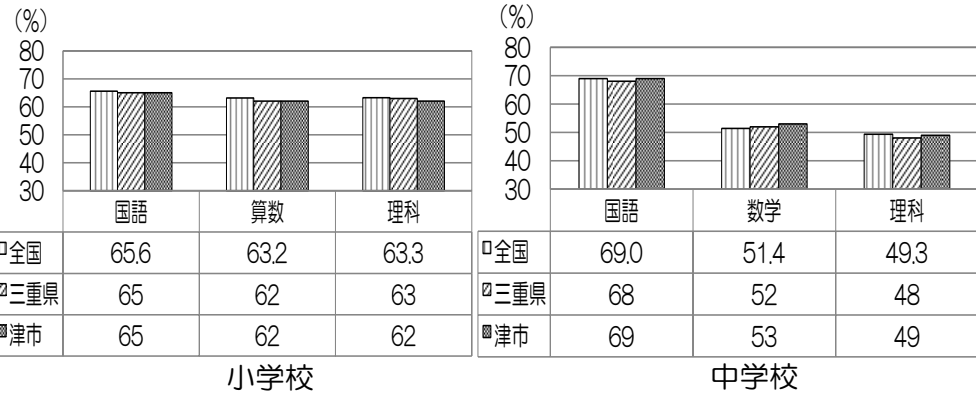
### (2) 実施日 令和4年4月19日（火）

### (3) 調査実施人数(津市) 小学校第6学年児童 約2,140人

中学校第3学年生徒 約2,010人

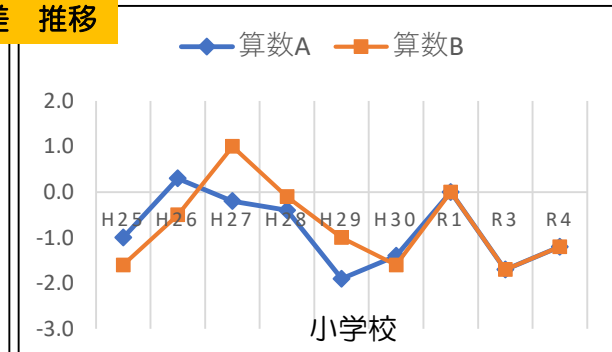
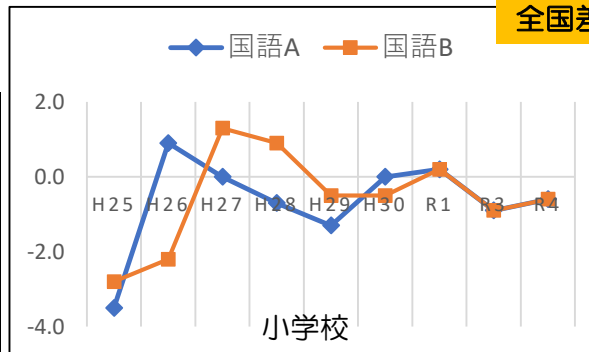
### (4) 調査内容 国語、算数・数学、理科、質問紙調査

## 2 平均正答率

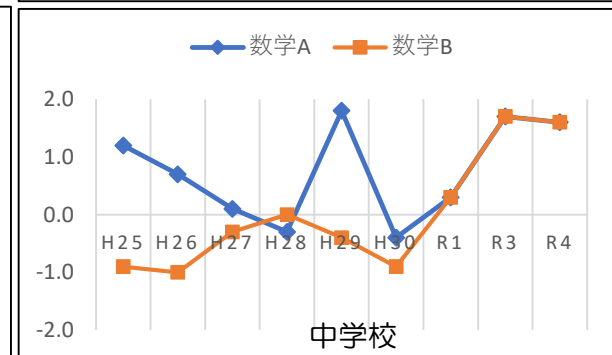
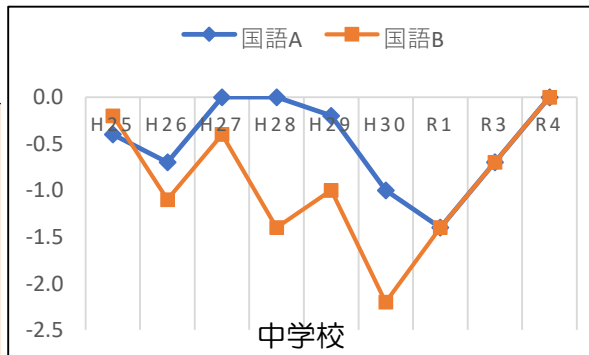


## 3 平均正答率推移

小学校		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和3年度		令和4年度	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	A	73	74.8	71	70.7	64	63.8	64	64.7	65	65.6
	B	57	57.5	54	54.7						
算数	A	77	78.6	62	63.5	67	66.6	68	70.2	62	63.2
	B	45	45.9	50	51.5						
理科				58	60.3					62	63.3



中学校		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和3年度		令和4年度	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	A	77	77.4	75	76.1	71	72.8	64	64.6	69	69.0
	B	71	72.2	59	61.2						
数学	A	66	64.6	66	66.1	60	59.8	59	57.2	53	51.4
	B	48	48.1	46	46.9						
理科				65	66.1					49	49.3



# 4 各教科 全国より正答率が低い問題や正答率自体が低い問題について

## 小学校

### 国語

1 四 (正答率45.5% 全国差▲2.2 無回答率2.3%)

互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるか

【第5・6学年 思考力、表現力、判断力等 A 話すこと・聞くこと】

「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての課題の解決法について自分の考えをまとめる問題です。互いの立場や意図を明確にしながら、自分の考えをまとめることに課題があると考えられます。

学習指導に当たっては、話し合いを始める際に、話し合いの目的や方向性を検討すること、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめることが大切です。

参考：国立教育政策研究所 報告書（小学校 国語）P27～32

### 算数

4(3) (正答率62.8% 全国差▲3.7 無回答率7.1%)

図形の意味や性質、構成の仕方について理解しているか【第4学年 B 図形】

辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ問題です。誤答で最も多かった A と回答した児童は、ひし形の意味や性質について、四つの辺の長さが等しいことは理解しているものの、二組の向かい合う角の大きさがそれぞれ等しいことを理解していないと考えられます。

学習指導に当たっては、学習する図形の意味や性質を基に、コンピュータを用いて作図する活動が考えられます。教科書会社作成の教材（Edutownプログラミング）も活用できます。

参考：国立教育政策研究所 報告書（小学校 算数）P80～81

### 理科

4(4) (正答率53.6% 全国差▲8.4 無回答率7.1%)

水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているか

【第4学年 A 物質・エネルギー及びB 生命・地球】

鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く問題です。

水が水蒸気になって空気中に含まれていることを理解できていないことや、水蒸気について正しく理解できていないことが考えられます。

学習指導に当たっては、生きて働く知識を習得することが求められます。そのためには、主体的な問題解決を通して知識を習得することや、科学的な言葉や概念を理解して児童の言葉で説明できるようにすることの重要性について意識して授業を進めることが大切です。

参考：国立教育政策研究所 報告書（小学校 理科）P71～73

## 中学校

### 国語

4一 (正答率39.4% 全国差±0 無回答率0.9%)

行書の特徴を理解しているか【第1学年 知識及び技能】

行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選ぶ問題です。行書の基本的な書き方についての理解に課題があります。具体的には、行書と楷書の違いや、「省略」「連続」「点画」が理解できていないと考えられます。

伝達性や表現性などを考えながら、目的や必要に応じて効果的に文字を書くためには、楷書だけでなく、行書の基礎的な書き方を身に付けることが必要です。

学習指導に当たっては、「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」などの行書の特徴を、伝統的な文字文化とも関連させながら理解し、それぞれがどのような書き方なのかを具体的に捉えて、実際に書くことができるようにすることが大切です。

参考：国立教育政策研究所 報告書（中学校 国語）P55～58

### 数学

6(3) (正答率35.8% 全国差▲1.8 無回答率21.2%)

結論が成り立つための前提を考え新たな事柄を見だし説明することができるか【第2学年 A 数と式】

ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する問題です。4の倍数になるような2つの偶数の差を見だして説明すること、和が4の倍数になる2つの偶数の特徴について見だすことに課題があると考えられます。

学習指導に当たっては、与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを、具体例をあげて調べる活動を通して、結論が成り立つための前提を捉え、見だした事柄を数学的に表現できるようにすることが大切です。また、一旦解決された問題やその解決過程を振り返り、問題の条件や過程を見直したり、共通する性質を見いだしたりして、統合的・発展的に考察できるようにすることも大切です。

参考：国立教育政策研究所 報告書（中学校 数学）P45～51

### 理科

8(3) (正答率33% 全国差▲6.2 無回答率1.4%)

生物の外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるか【第2分野 生命】

生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する問題です。

昆虫類の分類の観点や基準を理解しているものの、その基準に基づいて、未知の生物の外部形態の特徴を捉えて分類することや、分析して解釈することに課題があると考えられます。また、根拠に主語がない誤答も多く見られました。

学習指導に当たっては、共通点や相違点を基に分類表や検索表等を作り、その表を用いて未知の動物を分類するために話し合ったり、判断した根拠を示す際に、主語を明確にして表現したりする活動を通して、興味・関心を高め、観察時の着目点について考える力を身に付けさせることが大切です。

参考：国立教育政策研究所 報告書（中学校 理科）P85～87

# 5 児童生徒質問紙について

## (1) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等

※数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合

質問	津市	全国	全国差	質問	津市	全国	全国差
国語 49	60.3	59.2	1.1	国語 49	61.3	61.9	▲0.6
50	93.2	93.3	▲0.1	50	93.2	93.2	0.0
51	84.0	84.0	0.0	51	81.0	81.2	▲0.2
52	92.1	91.8	0.3	52	89.0	89.7	▲0.7
算数 53	64.0	62.5	1.5	数学 53	63.2	58.1	5.1
54	94.6	94.2	0.4	54	88.7	86.6	2.1
55	82.2	81.2	1.0	55	82.5	76.2	6.3
56	93.9	93.3	0.6	56	79.1	76.5	2.6
57	68.1	69.3	▲1.2	57	49.2	47.3	1.9
58	81.0	80.4	0.6	58	79.4	75.2	4.2
59	78.4	76.8	1.6	59	71.9	70.2	1.7
60	85.0	85.7	▲0.7	60	80.0	79.6	0.4
理科 61	77.4	79.7	▲2.3	理科 61	66.8	66.4	0.4
62	86.9	86.5	0.4	62	79.3	76.8	2.5
63	86.0	88.5	▲2.5	63	79.1	75.2	3.9
64	66.7	67.9	▲1.2	64	53.7	52.7	1.0
65	78.4	77.2	1.2	65	64.0	61.5	2.5
66	26.0	26.6	▲0.6	66	25.3	22.1	3.2
67	72.9	78.0	▲5.1	67	58.7	64.5	▲5.8
68	82.8	84.9	▲2.1	68	76.0	78.9	▲2.9
69	70.0	72.2	▲2.2	69	68.9	68.1	0.8

小学校

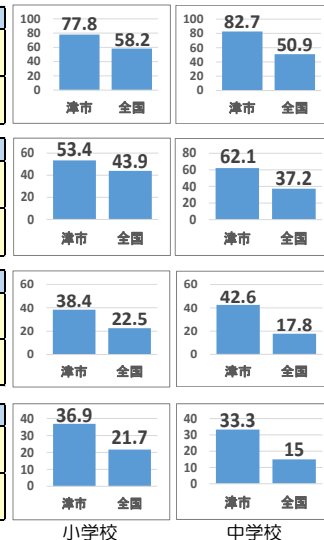
中学校

各教科別にみると、どの質問においても、全国より上回っているのは、中学校数学のみとなっています。各教科の正答率も全国より上回っているのは、中学校数学のみです。質問紙と正答率に相関がみられ、肯定的に捉える児童生徒ほど、正答率が高い傾向にあることが分かっています。好きかどうか、よく分かるかどうか等、各教科において、肯定的に捉えられる児童生徒を増やしていくことも、学力に関わる大切なことです。

## (2) ICTを活用した学習状況

※数値は週3回以上の割合

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差
小32	これまでの授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	77.8	66.6	58.2	19.6
中32		82.7	71.5	50.9	31.8
小33	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）	53.4	46.6	43.9	9.5
中33		62.1	50.3	37.2	24.9
小34	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	38.4	27.2	22.5	15.9
中34		42.6	34.7	17.8	24.8
小35	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	36.9	27.3	21.7	15.2
中35		33.3	28.3	15.0	18.3



ICTを活用した学習状況については、どの質問においても、肯定的な回答は全国と比べて多い結果となりました。津市GIGAスクール構想の実現に向けて、導入した児童生徒1人1台タブレット端末等ICT機器の活用が進んだことがわかります。

このまま活用を進める上で大切なことは、学ぶための手段として効果的に活用することです。活用すること自体が目的になってしまうと効果はありません。紙媒体のよさ、ICT機器のよさを見極めながら、教材研究や授業計画をしていきます。

また、教師間で活用頻度や活用方法に関する知識・技能等に格差が生まれないよう、研修会を設けたり、放課後に活用実践について共有したりすることも大切にしていきます。

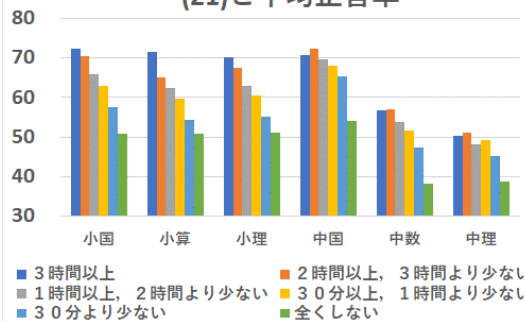
## (3) 家庭学習の時間、ゲームの時間

※数値は1時間以上の割合

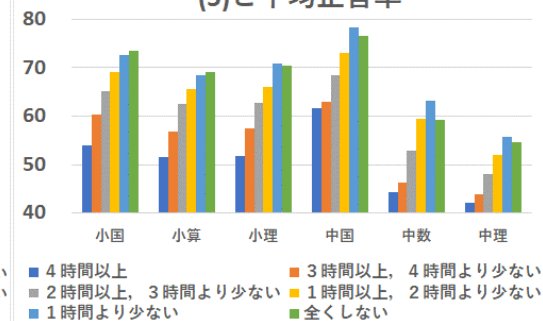
質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差
小21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	57.8	56.5	59.4	▲1.6
中21		70.3	68.5	69.5	0.8
小5	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか	77.9	79.2	76.1	1.8
中5		76.6	74.8	71.3	5.3

家庭学習の時間は、小学校は全国より下回り、中学校は上回る結果となりました。またゲームの時間は、小中ともに全国より長くゲームをしている児童の割合が多い結果となりました。家庭学習の時間とゲームの時間は、各教科の平均正答率との相関も見られます。概ね家庭学習の時間が長く、ゲームの時間が短い児童生徒ほど正答率が高い傾向にあります。生活習慣の改善のため、家庭との連携も進めていきます。

### (21)と平均正答率



### (5)と平均正答率



# 6 学校質問紙と児童生徒質問紙の比較

## (1) 主体的な学習

学校質問紙 ※数値は「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差
小23	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	87.8	91.2	87.2	0.6
中23		95.2	92.1	87.9	7.3

児童生徒質問紙 ※数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差
小39	これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	75.7	77.6	77.3	▲ 1.6
中39		82.5	83.1	79.2	3.3

学校質問紙において主体的な学習は、小中ともに全国よりも上回る結果となりました。とくに、中学校においては、7.3ポイント上回り、主体的な学習への取組が進んでいることがわかります。しかし、児童生徒質問紙の本市の結果と比べると、小中ともに12ポイント以上乖離が見られます。

学校質問紙において対話的な学習は、小学校が全国よりも下回り、中学校は全国よりも上回る結果となりました。しかし、児童生徒質問紙の本市の結果と比べると、小学校は、1.1ポイントの乖離があるのに対し、中学校は、12.7ポイントも乖離が見られました。

上記質問紙は全て、肯定的に回答している学校及び児童生徒ほど、正答率が高い傾向にあることが分かっています。児童生徒が肯定的に捉えられるよう、児童生徒の視点も大切にしながら、主体的・対話的な学習への取組を進めていきます。

## (2) 対話的な学習

学校質問紙 ※数値は「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差
小26	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	79.6	83.3	80.9	▲ 1.3
中26		90.5	89.5	86.2	4.3

児童生徒質問紙 ※数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合

質問番号	質問事項	津市	県	全国	全国差
小43	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	78.5	78.6	80.1	▲ 1.6
中43		77.8	80.1	78.7	▲ 0.9

# 7 今後の改善方策について

## (1) 自校の分析について

各教科の分析は、国立教育政策研究所が作成している報告書が拠り所となります。報告書には、調査の概要や調査の結果、各問題の分析結果と課題、授業アイデア例が掲載されています。調査結果から自校の成果と課題を把握し、授業改善に役立てましょう。下記QRコードから報告書掲載のサイトにアクセスできます。

### 授業アイデア例

「正多角形を作図しよう」  
～図形の意味や性質を基に、発展的に考察する～  
(実施対象学年) 第5学年

① コンピュータを用いて、正方形や正三角形を作図する。



教師

正多角形の学習では、円の中心の周りの角を等分して作図をしました。今度は、コンピュータを使って、作図してみましょう。

#### 正方形のプログラム

5 cmの直線を引く。

左に90°回転する。

これらを4回くり返す。

#### 正三角形のプログラム

5 cmの直線を引く。

左に120°回転する。

これらを3回くり返す。



② 正方形や正三角形のプログラムを基に、正五角形を作図する。

## (2) 理解と定着に向けたPDCAサイクルの確立

